平成24年度在宅医療連携拠点事業

【鹿児島県】

社団法人肝属郡医師会
肝属郡医師会立病院

～テーマ～

少子高齢、過疎化が進む中で、限られた資源、機関を有効に活用し、住み慣れた地域で過ごす体制作りに向けて

鹿児島県における当地域の高齢化率

南大隅町

43.3%（県1位）

（人口：８，774人

面積：163.15km2）

→ 佐多地区 **52.7%**

錦江町

40.0%（県2位）

（人口：8，870人

面積：213.61km2 ）

鹿児島県肝属郡錦江町・南大隅町の医療資源

錦江町

	施設数	病床数
病院	1	208
有床診療所	1	19
無床診療所	4	
歯科医院	4	
訪問看護ステーション	1	
薬局	6	

南大隅町

	施設数	病床数
病院	0	0
有床診療所	0	0
無床診療所	1	
歯科医院	2	
訪問看護ステーション	1	
薬局	3	

ﾀｽｸ1）多職種連携の課題に対する解決策の抽出

①全関係機関へのアンケート調査

②連絡協議会の開催（月1回）

③ケースを通した課題解決

ﾀｽｸ1)-①アンケート調査結果（H24年6月）

①在宅医療を進めていく上で連携を取るのが難しい**機関**は？

②在宅医療を進めていく上で連携を取るのが難しい**職種**は？

地域包括支援センター	14.7%
急性期病院（医師）	12.6%
歯科医院（歯科医師）	10%

歯科衛生士	23.4%
歯科医師	22.6%
医師	13.7%

アンケート結果上位

ﾀｽｸ1）-②　在宅医療連携連絡協議会

（多職種連携研修会、グループワーク）

主なテーマ

① 6/27　事業説明、意見交換会（61名）
② 7/31　病院･地域包括支援センターの役割（54名）
③ 8/30　歯科医師、歯科衛生士の役割（49名）
④ 9/25　在宅及び施設における看取り（37名）
⑤10/31　口腔ケア（38名）
⑥11/28　在宅人工呼吸器患者の療養生活（59名）
⑦ 1/16　病院と関係機関における課題と解決策（27名）
⑧ 2/26　認知症ケアに対する取り組み
⑨ 3月　事業報告、意見交換会

連絡協議会などを通し、関係機関への成果及び認知度向上

【医師】

◆面会が出来ない医師会会員と面会が出来るようになった。

◆人（材）不足が地域の健全化・発展を阻害する事になる。自分達（医師）の役割は大。

【薬剤師】

◆他医師会会員との連携関係ができ、在宅訪問の実績へ繋がった。

◆「残薬袋」の配布をはじめ、住民へ残薬の課題につい認識を高める活動ができた。

連絡協議会などを通し、関係機関への成果及び認知度向上

【歯科医師、歯科衛生士】

◆口腔ケアに対する取り組みがなかったが、歯科医師と関わることで、研修会の講師や実技指導等協力が得られ、普及に向けた取り組みが推進された。

【行政】

◆医療機関との連携が少なく、医師会立病院の連携機能が強化され、行政や住民にとって画期的な活動になった。

◆介護保険主治医意見書の作成時期が以前より早まり、住民サービスとしても助かる。

ﾀｽｸ1）-③ケースを通した取組事例

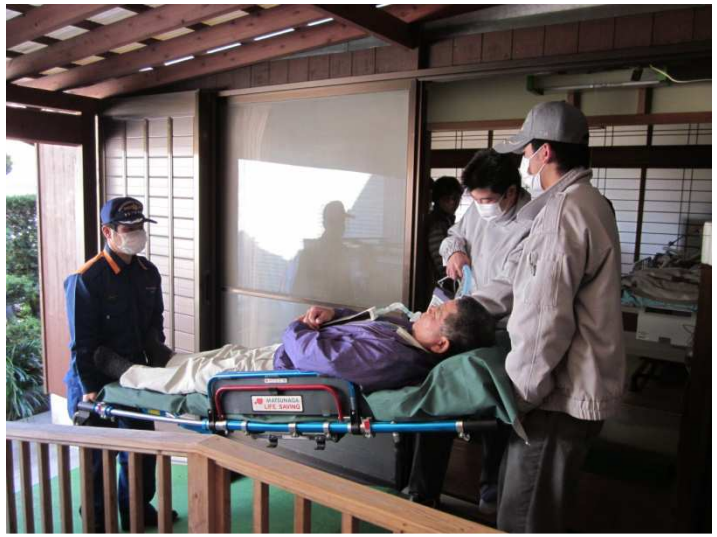
在宅人工呼吸器療養生活における多職種連携

①医師、歯科医師、薬剤師による在宅訪問診療

②救急隊との連携

・臨床工学技士による操作マニュアル手順書の提供

・緊急時を想定した搬送訓練



③緊急時やレスパイト入院時の受入体制

＊現在までのレスパイト入院暦

・11/29～12/6　　・1/23～1/30

ﾀｽｸ2）在宅医療従事者の負担軽減の支援

①医師会会員への在宅療養支援診療所の届出普及活動

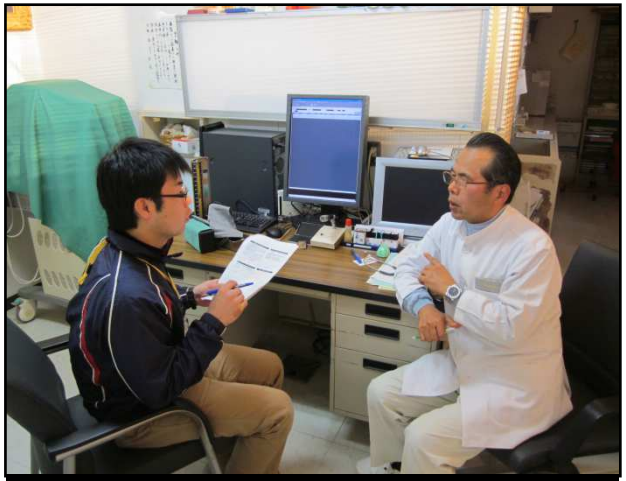
②救急時の受入体制強化

③訪問看護ステーションが抱える課題

ﾀｽｸ2）-①医師会会員への訪問活動

津崎医院　津崎貴春　医師

長浜医院　小幡悦朗　医師



大根占医院　山下健治　医師

【訪問活動の意義】

諦めずに粘り強く相談した結果、在宅療養支援診療所の届出への理解や町外への訪問診療も行われ、訪問活動の意義を実感した。

ﾀｽｸ2）-②救急時の受入体制強化

佐多分署における当院への搬送状況推移と勤務医数

	平成16年	平成19年	平成22年	平成23年	平成24年
常勤医師数	17	11	11 →	9 →	8
	臨床研修医制度改正	呼吸器科1⇒0。整形外科2⇒0		外科4⇒1	
	佐多分署救急搬送拒否率	5.3%	21.3%	**30.3%**	**8.8%**

受入体制が課題であったが、

常勤医師の協力のもと、受け入れが増えてきている

ﾀｽｸ2）-③訪問看護ステーションが抱える課題

医療材料とは

『在宅医療に必要な医療材料は指導管理料に含まれ算定し医療機関が患者・家族へ直接支給する』となっている。

しかし・・・

患者・家族へ支給されないことがしばしばある

ステーションの持ち出しケースがある

周知活動

各医療機関への訪問活動を継続し、ステー ションが持ち出す件数が減少してきた。（負担軽減）

ﾀｽｸ3）効率的な医療提供のための多職種連携

①拠点職員による社会資源の開拓

②各種連携の会へ参加し、事業説明や普及活動を実施

（他地域への面展開活動）

ﾀｽｸ3）-①拠点職員による社会資源の開拓作業

【訪問入浴サービス】

町外へのサービス拡大

過疎・高齢化地域を抱える行政間の協力体制が可能となった。

ﾀｽｸ3）-①拠点職員による社会資源の開拓作業

地域に吸引講習を終了したヘルパーがいない

拠点より全ヘルパー事業所（3箇所）への働きかけを行い、吸引講習会へ9名受講し3月に取得予定

↓

新たに地域で吸引処置等要するケースに対応できる体制作りができた。

ﾀｽｸ3）-②各種連携の会へ参加

【目的】

既存の会における面展開へ向けた拠点事業の普及啓発、取組事例紹介

【各種連携の会】

＊在拠連ワーキング活動（毎月）
＊南大隅町地域ケア会議（毎月）
＊錦江町介護支援専門員連絡協議会（毎月）
＊大隅地域連携ネットワーク協議会（年4回）
＊大隅地域難病研修会（年2回）
＊鹿児島県難病ネットワーク研修会（年2回）
＊鹿屋肝属地区脳卒中を語る会（年4回）

ワーキング活動

他地域への拠点活動普及啓発

ﾀｽｸ4）在宅医療に関する地域住民への普及啓発活動

①相談窓口の設置
②在宅医療ﾊﾟﾝﾌﾚｯﾄを作成し、配布（1000部）
③ホームページリニューアル
④ニュースレター（活動報告）の発行、掲示
⑤地域住民への普及啓発活動
⑥在宅医療フォーラムの開催

①相談窓口、掲示物の広報

②在宅医療パンフレット（1000部）

③ホームページリニューアル

④ニュースレター（活動報告）の発行、掲示

http://www

在拠連 ニュースレター

2012年12月14日発行
第6号

社団法人肝属郡医師会　肝属郡医師会立病院

1. 第7回在宅医療連携拠点事業連絡協議会を開催

日時：平成24年11月28日（水）　17時30分～19時40分
場所：肝属郡医師会立病院　4階　第2会議室
出席者数：59名

この号の内容

1　第7回在宅医療連携拠点事業連絡協議会
2　第7回在宅医療連携拠点事業連絡協議会終了後のアンケート回答
3【退院支援】人工呼吸器管理下における在宅退院支援から退院まで
4　【研修会へ出席】松戸市医師会主催多職種連携研修会
5　第8回在宅医療連携拠点事業連絡協議会開催案内
6　今後の予定

各グループより活発な意見が出ました。皆様方からの意見を踏まえ解決策として検証したいと思います。

【協議会のポイント】
以前当院に入院中されておりました神経難病である筋萎縮性側索硬化症（ALS）で人工呼吸器管理の患者様が在宅へ退院され、現在自宅療養中です。現在当地域においては在宅にて人工呼吸器を使用し在宅療養生活をされているケースはない中で本ケースを通し、各グループ別で意見交換を行い、課題や課題に対する解決策について検証したいと思います。

【各グループからの意見】（一部）
◆本症例に関わったヘルパーが実際このグループにおり、初めてのことで訪問看護師の指示や協力がないととても難しかった。
◆現在入浴対応ができていない状況であり、また妻の介護の負担を軽減するためにもデイサービスを週に1～2回でも利用できる体制を整えるべきでは。
◆ケアマネージャーとしては医療サポートに不安がある。本症例は医師会との連携ができたので良かったのではないか。退院までに家族ができる指導を行なうことで家族の不安が解消された。
◆老健としては今後レスパイト先として、老健も対象になりうる時期が来たと感じた。今まで、医療依存度があるといっても、酸素吸入や点滴の利用者のみであった。今後は呼吸器管理や吸引などの医療が必要な方を受入為に利用時の対応や夜間の対応（看護師が一人なので、仮眠中の吸引や呼吸器管理など）等受入体制作りを始めなければと感じた。
ヘルパー事業所では喀痰吸引ができるようになっているが、そのような事例に担当すると決まらなければ研修を受講できない制度上の問題がある。今後は、制度上の問題も大きいが、50時間の研修をクリアして対応していきたい。また、これまで人工呼吸器を使用した事例がなく、送迎の不安、入浴等、介護負担の軽減を図るための受け入れ体制を作りたい。

在拠連ニュースレター　　3ページ

◆退院後の取り組み
＊当院神経内科医師による在宅訪問診療
＊当院臨床工学士及びリハビリ技師の在宅訪問
（在宅療養生活が落着くまで：無償）
＊当院でのレスパイト入院
・当院における病床の確保
・緊急時及び家族からの要望時に対応
◆今後の主な課題
＊当地域には人工呼吸器管理の症例を通所系サービス事業所において受入する事業所がない為今後関係機関へ受入についての働きかけを行う。
＊当地域には3箇所のヘルパー事業所があるが吸引講習を終了した者がいない為家族や訪問看護師の負担が大きい為各事業所への働きかけを行い、マンパワー不足の解消を図る。
＊移送サービス
錦江町は移送サービスがなく定期的な医療機関受診等の際は民間タクシ等を活用しているが、経済的な負担が大きい為、今後行政に対して要望し、地域の課題として検討頂く。

【退院時移動風景】

4. 多職種連携研修会へ出席

日時：平成24年12月1日（土）～2日（日）　2日間
名称：在宅医療推進のための地域における多職種連携研修会
主催：千葉県松戸市医師会　後援：松戸市、国立長寿医療研究センター
場所：千葉県松戸市衛生会館　3階　大会議室

主な研修内容
1）医療、介護資源マップの作成
2）事例検討：がんの症状緩和と多職種による在宅療養支援
3）認知症患者のBPSDへの対応と意思決定支援
4）在宅において何故IPW（専門職連携協働）が必要なのか
5）在宅医療を推進する上での課題とその解決策
今回の研修では特に2）、3）については専門的な領域の内容であったため、当拠点においても活用できないか検討する。

【多職種連携研修会】
多職種連携協働は、医師、歯科医師、薬剤師、看護師、ケアマネジャー、介護士などの医療福祉従事者がお互いの専門的な知識を活かしながらチームとなって患者・家族をサポートしていく体制を構築することを目標としている。

5. 第8回在宅医療連携拠点事業連絡協議会開催案内

日時：平成25年1月　（日時、テーマは調整中）
場所：肝属郡医師会立病院　4階会議室

6. 今後の予定

今年も残りわずかとなりました。本事業の取り組みは始めての試みであり、皆様方のご協力なしには成し遂げられない事業であります。現況としましては医師会立病院のあり方や今後の方向性等考えさせられるいい機会にもなり、改めて本事業の意義を実感しております。
今後とも皆様方のご協力の程宜しくお願い致します。

社団法人肝属郡医師会
肝属郡医師会立病院
【在宅医療連携拠点事務局】
〒893－2301
鹿児島県肝属郡錦江町神川135－3
電話番号：
0994－22－3111
FAX 番号：
0994－22－3110
電子メール：
【電子メール】 yo-sakaue@kigins.com

⑤地域住民への普及啓発活動

講師：訪問看護ステーション菜の花
看護師 恒川美加様

講師：かわごえ薬局
薬剤師　川越俊作先生

講師：肝属郡医師会立病院泌尿器科 川平秀一郎先生

肝属郡医師会立病院保健師による生活習慣病指導

⑥在宅医療に関するシンポジウム

日時：平成25年3月9日（土） 14時～16時30分

会場：錦江町文化センター

【基調講演①】

『在宅医療が日本を変える―キュアからケアへのパラダイムチェンジ』 ナカノ在宅医療クリニック 院長 中野一司先生

【基調講演②】

在宅医療連携拠点事業の取り組み経緯と現状について

【シンポジウム】

多職種連携について医療依存度の高い事例を通し、在宅療養生活を支援する取組み

ﾀｽｸ5）在宅医療に従事する人材育成

①地域の医療、介護従事者への
　研修会の企画、広報

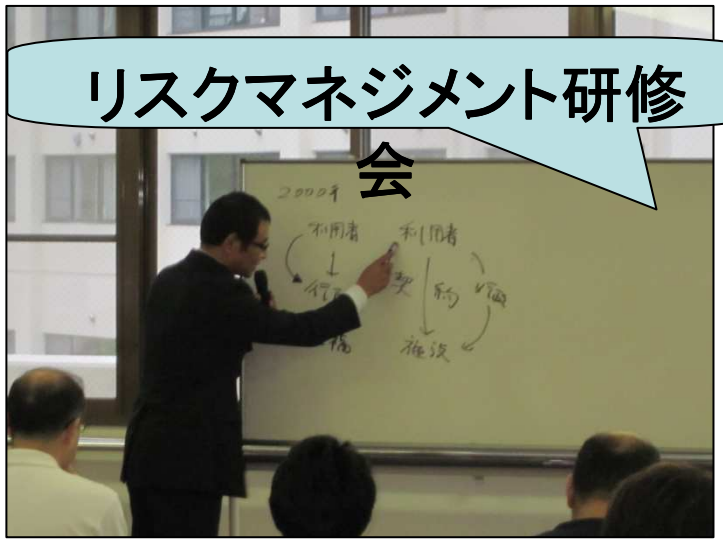
②実技研修会の企画及び広報

ﾀｽｸ5）-①地域の医療、介護従事者対象研修会の企画、広報

在宅酸素機器取扱研修会

感染対策研修会

リスクマネジメント研修会



在宅服薬指導について

ﾀｽｸ5）-②実技研修会の企画及び広報

口腔ケア研修会及び実技指導

年8回開催予定
（対象）医療、介護従事者
（講師）歯科医師、歯科衛生士

＊口腔ケアに関する手技の習得
（誤嚥性肺炎の予防）
＊障害、認知症状があってもおいしく
安全に食べる秘訣

今後に向けた在宅医療関係者間のネットワークの構築

①在宅医療連携拠点連絡協議会の継続開催

②障害者や高齢者を含めた在宅療養者の救急時の受入体制強化

③住民、市町村、関係機関との連携網を推進し、認知症ケアに対する地域内での早期発見の仕組作り

拠点機能を生かした新たな取り組み

【地域の課題】

認知症ケアに対する地域での取り組みがない

【目的】

行政、地域住民、関係機関と連携し、認知症ケアに対する地域での早期発見システム作りを目指す

【活動状況】

・拠点による**多職種認知症ケアチーム**の立上を行い、教育研修ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑを計画

・連絡協議会にて課題と解決策について検討予定

・**拠点機能を活かし**住民や行政及び関係機関との連携網を活用することで認知症ケアの課題に取り組む

医師会立病院（郡医師会）が拠点となる効果①

地域包括ケアシステムの重要性を改めて認識し、医師会の理解、協力がなければ市町村主体で取り組むことの難しさを実感した。

当医師会が拠点となることで、連携の図りにくい医師会や多職種からも協力体制が得られやすくなった。

医師会立病院（郡医師会）が拠点となる効果②

資源が乏しく少子高齢が進行する地域だが、在宅を望んだ時に支える体制作りを実現する為に関係機関を巻き込むことで解決出来ることを実感した。

多職種が一堂に会する会は、地域おこしの一助を担っていることを痛感した。

ご清聴
ありがとうございました